

# 《旅》の精神



「アブラ [ハ] ムは、主の言葉に従って旅立った」。聖書には《旅》について物語っている箇所がたくさんあります。キリスト教信仰の本質的なところに《旅》が関係するように思います。

聖書の旅は、たんなる「放浪」ではありません。また経由地や経路がすべて明らかになっている「ツアー旅行」でもありません。聖書の旅は何のためか（目的）、どこへ目指すのか（目標）は少なくともいずれかは与えられています。しかし、途上で想定外の問題も起こりますし苦難に出会うこともあります。必要があるので、何かの実現のために、あえて「旅立つ」のが、聖書が物語る《旅》です。

そのような旅の目的・目標は、「使命」（Mission）と呼ばれます。その使命から離れることなく（on Mission）歩むことが、大切です。私たち一人一人が必要とされ、実現すべき何かが与えられていると聖書は考えています。それが《旅》というかたちをとるのです。学院の創立者ランバースもそのような「使命」をもった人であり、生涯、世界中を旅し続けました。大学生活には、そのような「使命」との出会いがまず重要であると思います。

《旅》は、しかし「地理的」移動を意味するにとどまりません。旅の「精神」は、現状からの変化や可能性への挑戦を厭わないということです。旅をすれば日常からの変化を経験しなければなりませんし、思いもよらない新しいことに会うことになるでしょう。旅はつねに「冒険的試み」（Venture）です。変化に対応し可能性をきり拓きながら歩を進めるのです。学院設立から大学昇格への歩み、その後の発展は学院における《旅》の精神を体現したものと言えるでしょう。

関西学院で学ぶとき、《旅》の精神を心にとめて欲しいと願います。新しい学問に取り組む、初めての経験に挑戦してみる、未知の外国語の修得を目指す、海外に留学する…、さまざまな「冒険的試み」があるでしょう。そのような「試み」を、目指すところ、実現すべき何か、「使命」と結びつけながら歩むことがさらに重要です。

《旅》する者の大学生活はきっと有意義なものとなるにちがいありません。

（高等教育推進センター長）